

力をつけるための復習の仕方を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。先週は、年を10歳とるごとに、これから先の10年間をどのように過ごすかといった勉強をしてはどうか、特に60歳を過ぎたら大学生・大学院生になって大学で勉強すると素晴らしい人生を送れるのではないかという話をさせていただきました。実を言うと、近年は子供の人口が非常に減ってきていますので、大学も経営が大変です。そこで、社会人の方や60歳過ぎの方に、大学、専門学校、短大、大学院に来てもらうことは非常に喜ばしいことで、大歓迎してくれると思います。行きにくかったら、最初は聴講生としてお入りになってはいかがでしょうか。正式な学生としてではなく聴講生としてお願いしたい旨を申し出れば必ず入れてくれますので、是非お近くの大学、短大、専門学校、大学院で勉強していただければと思います。それもなかなか大変だということでしたら、近くに大学や短大などがあればそこには図書館もあり、市民の方は登録さえすればいくらかでも入れてくれますので、1週間に1度くらいは大学、短大、専門学校の図書館に行き、勉強していただくようお願いいたします。そうすると、学生たちも先生方もとても喜ぶますので、双方にとって非常に素晴らしいことだと思います。社会人の方やリタイアした方は、そのような形で勉強しながら若々しく過ごし、子供や孫たちの代につけを残さないような、不必要な医療費や介護のお世話にならないような生き方を目指したらよいのではないのでしょうかという話を、先週はさせていただきました。

今日はまた元に戻り、もうじき冬休みですので、勉強の仕方、特に力をつけるための復習の仕方について話をさせていただきます。いつもお話させていただいているように、勉強には「うん、なるほど」と腑(ふ)に落ちる「理解」の段階があります。「理解」するためには、学校や塾の授業中に先生がお話をするときは、手を机の上に置いて先生の顔をじっと見ながら、他のことを考えずに、また、おしゃべりをしないで、真剣に聴くことをお勧めします。メモは取らないほうがよいです。「腑に落ちる」あるいは「納得」することが大事ですから、メモは取らずに、手を机の上に置いて先生の顔や目を見ながら真剣に話を聴き、一心不乱に勉強して下さい。

では、なぜメモを取らなくてもよいのでしょうか。それは、「だから、だ」という考え方のプロセスのような事柄は、小学校から高校ぐらいまでの学習内容であれば、教科書や参考書、副教材の中に全部書いてあるからです。さらに、先生方はそれらを別な形で分かりやすく説明していただきますので、メモを取らなくてもよいわけです。ただし、それらが書いてない科目、あるいは教科書に記載されていない事柄に関しては、先生の言うことを一言残らず一心不乱にメモに取る、これを習慣にしたほうがよいです。考え方の流れが十分に教科書や参考書、副教材に書いてあることについてはメモを取らずに先生がおっしゃることを手を机の上において目を見ながら一心不乱に聴き、そして納得する、これが「理解」です。「理解」しても、次にそれを「記憶」しないと「定着」はできません。いくら「うん、なるほど」と分かって、次の瞬間に全部忘れてしまっただけでは何にもなりませんから、「記憶」するためにはどうしたらよいかということについて、次に話をさせていただきます。

教科書や副教材には覚えるべきことが一語一句書いてあり、またいろいろな参考書には考え方が書いてあります。その書いてある中身、一語一句を教科書や副教材やノートでじっくりと読み込んで、それらを覚えて下さい。「A だから B である、B だから C である」という流れを頭に入れること、つまり丸暗記が大事です。丸暗記はダメだという人がいますが、できるときにしておかないと、年齢がいくと、丸暗記はなかなかできなくなります。だいたい小学4・5年生くらいから中学1年生、人によっては高校1・2年生くらいまでが、記憶力がとてもよい時期だと私は思います。大学生もよいとは言われますが、やはり小学校の高学年から高校1年くらいまでが一番よいわけです。この最も記憶力がよい時期に1度「理解」したことを丸暗記する、これが大事ではないかと思います。丸暗記ができる時期、その年代に頭に入れるということです。どのようにして丸暗記するのかというと、「理解」していないことを丸暗記してもしかたありませんから、教科書や副教材、ノートを使いながら一度「理解」したことを、一語一句しっかりと暗記していきます。その時声に出して読むとよいですね。特に、「A は B だ」といった定義、その定義は必ず声に出して読み、全部そのまま覚えて下さい。

それを、何も見ないでスラスラ口をついて言えるような段階にまでしていただければと思います。それが可能になった後はどうするかというと、書き取り練習をするのがよいですね。書けないと話になりませんから。現代はコンピュータやワープロ機能の付いたコンピュータが盛んに使われていますので、書くことをしないでそのまま覚える方がいますが、やはり書き取り練習、つまり、実際に書く練習をしないかぎりなかなか漢字は覚えられませんので、是非時間をかけて書き取り練習をして下さい。

漢字の「赤」と「青」が書けない大学生もいるんですよ。皆さんは、そんな大学生にはならないようにして下さい。だからこそ書き取り練習をして1度覚えたことを何も見ないでスラスラ書いてみる、そこまですると非常によいと思います。書き取り練習をしながら頭の中にたたき込み、それができたら「応用」の練習をすると、最終的な仕上げができます。

今日は12月11日で、2学期の期末テストを実施した学校はすでに終わっていると思いますので、冬休み前に、今まで、特に2学期に学習した内容をまとめて覚え込むことが大事だと思います。ご参考までに申し上げますと、社会人の方は、できれば土曜日に、その週に仕事で勉強したことや新しく仕事をしたことなどを、復習の意味で頭の中に入れておくといよいですね。そして日曜日には、来週どんなことをやるか新しい週のスケジュールを組んだり、このようにやろうという計画を考えたりすることが大事です。社会人の方や仕事をする方は、お客さんと話したこと、新しく開発した商品のこと、情報として得たことなど、何でもメモに取り、それらを頭の中に入れておく、つまりメモの習慣をつけてそれを活用していくといよいと思います。社会人ほどメモを取り続けて、それらを土曜日・日曜日を使って頭の中に入れること、日曜日には次の週に何をするかということを考えることが大事なことだと思います。

学生の皆さん、そして社会人の方々、復習をしっかりと新し学期や週に臨んでいただきたいと思っています。